

# 秀英体

DNP オリジナル書体



1

秀英体は、大日本印刷の前身である秀英舎の時代から、100年以上にわたって開発を続けている書体です。\*近代化が急速に進展した明治初期、秀英舎は印刷を「文明の営業」と表現して活版印刷に力を注ぎ、やがて自社で活字の開発に取り組み始めました。明治45年(1912)には、活字サイズで初号から八号までの明朝体が揃い、秀英体は東京築地活版製造所の築地体とならぶ「和文活字の二大潮流」と評され、当時から現代のフォントデザインにまで大きな影響を与えています。\*活字書体として誕生した秀英体は、活字の大きさや時代のニーズに合わせた豊富なバリエーションが特徴です。気骨ある迫力の初号、流麗で繊細な三号、そして現在の秀英明朝の原型となった明るく落ち着いた四号……。根底に共通するいきいきとした筆づかいは、言葉に雄弁な表情を与え、あざやかに彩ります。\*文字をめぐる技術とメディアの環境は活版印刷からDTP、そして電子書籍へと大きく変化しました。しかし、いかに環境が変わろうとも、文字はコミュニケーションの基盤であり、美しく読みやすい書体が果たす重要性に変わりはありません。\*さらに変化していく未来を見据えて、秀英体はこれからも進化し続けていきます。常に新しく生まれ変わり、最前線で使われ続ける書体——秀英体100年の伝統とは、革新の姿勢そのものです。

# 秀英体の一世紀

技術と開発の変遷

秀英体の歩んできた一世紀は、日本の近代印刷の歴史といえます。秀英体は活版印刷用の書体として誕生しました。現在では印刷のみならず、ディスプレイ表示や電子書籍にいたるまで利用シーンが広がっています。どんなに技術は変わっても、常に使われ続けている書体、それが秀英体です。

1876 (明治9) 現在の銀座・数寄屋橋交差点付近で、秀英舎が創業。<sup>1</sup>

1881 (明治14) 活字の鑄造設備導入。

1889 (明治22) 「五号活字見本」発行。

1903 (明治36) 総合見本帳

1910 (明治43) 「活版見本帖『Type Specimens』」発行。

1912 (明治45) 「活版見本帖『Type Specimens』」発行。<sup>4</sup>

1914 (大正3) 総合見本帳

1915 (大正4) 「活版見本帖『Type Specimens』」発行。

1923 (大正12) 関東大震災の被害を受け、秀英舎本店を市谷に移転。<sup>5</sup>

昭和

1935 (昭和10) 秀英舎と日清印刷が合併し大日本印刷と改称。

1948 (昭和23) ベントン式母型彫刻機を導入。母型製造の機械化。<sup>6</sup>

1951 (昭和26) 彫刻機による新型母型「A1明朝」が実用開始。

1955 (昭和30) 金属活字のサイズをポイント制に統一し、号数制を廃止。

1968 (昭和43) A1明朝原字を細型化する改刻作業開始。

1976 (昭和51) コンピュータ組版用に秀英体のデジタル化開始。<sup>7</sup>

1981 (昭和56) 「秀英明朝SHM」発売。モリサワより写植用文字盤「秀英3号かな」発売。

平成

1992 (平成4) 秀英体拡充計画開始(字種拡張・ファミリー化)。電子書籍向けに秀英体のライセンス提供開始。

1995 (平成7) 市谷工場の金属活版印刷を終了。<sup>1</sup>

2003 (平成15) 秀英体リニューアルプロジェクト

2005 (平成17) 「平成の大改刻」開始。(10書体のべ12万字を開発)<sup>8</sup>

2008 (平成20) 目に優しく読みやすい明朝体フォント「秀英横太明朝」を開発。

2009 (平成21) DTP向けに秀英体の一般販売を開始。

2011 (平成23) WEBフォント向けに秀英体のライセンス提供開始。

2015 (平成27) かな書体の復刻とウエイト拡充(5書体を開発)。

2016 (平成28) 活版印刷の風合いを再現した「にじみフォント」を開発。



3



4



5



6



7

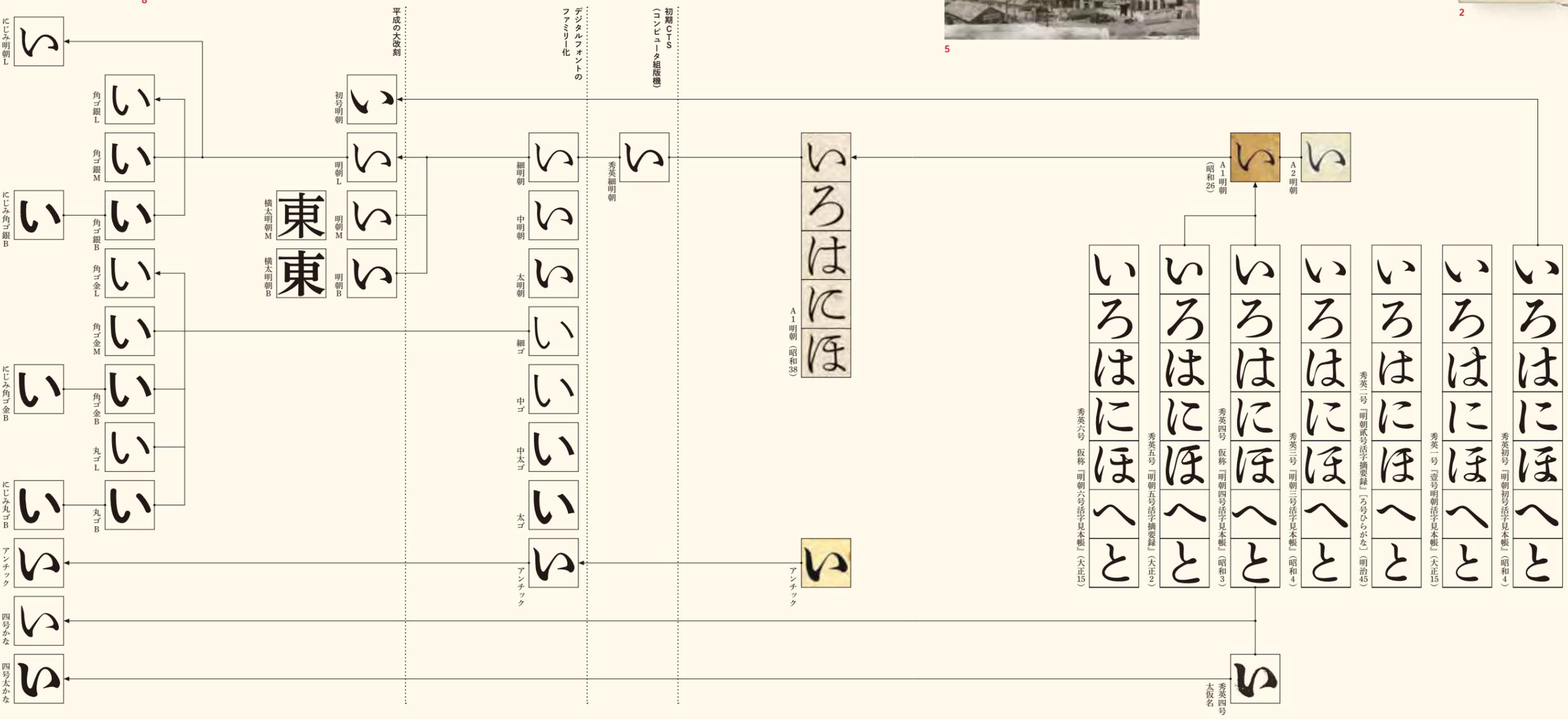


8

# 秀英体のかたち

書体系図 秀英体の変遷

ひとくちに秀英体といっても、幅広いバリエーションがあります。それぞれの活字サイズに最適なデザインがあり、それが100年間の印刷技術の変化に合わせて、少しずつ手を加えられ、姿を変えてきました。さまざまな秀英体のデザインとその変遷をご覧ください。



秀英明朝 L

ローマでは一日（朔日）を *calendae* といった。これは「月を呼んだ日」という意味だった。これが英語のカレンダーの語源となった。今日私たちが使用している太陽暦は、人類がこれまでに得た最高の暦である。しかし、季節の到来を正確にしめす太陽暦を、古代の人々は簡単に得ることはできなかった。最初は、夜空に

秀英明朝 M

ローマでは一日（朔日）を *calendae* といった。これは「月を呼んだ日」という意味だった。これが英語のカレンダーの語源となった。今日私たちが使用している太陽暦は、人類がこれまでに得た最高の暦である。しかし、季節の到来を正確にしめす太陽暦を、古代の人々は簡単に得ることはできなかった。最初は、夜空に

秀英明朝 B

ローマでは一日（朔日）を *calendae* といった。これは「月を呼んだ日」という意味だった。これが英語のカレンダーの語源となった。今日私たちが使用している太陽暦は、人類がこれまでに得た最高の暦である。しかし、季節の到来を正確にしめす太陽暦を、古代の人々は簡単に得ることはできなかった。最初は、夜空に

秀英初号明朝

**ローマでは一日（朔日）を *calendae* といった。**

**これは「月を呼んだ日」という意味だった。これが英語のカレンダーの語源となった。今日私たちが**

秀英四号かな

ローマでは一日（朔日）を *calendae* といった。これは「月を呼んだ日」という意味だった。これが英語のカレンダーの語源となった。今日私たちが使用している太陽暦は、人類がこれまでに得た最高の暦である。しかし、季節の到来を正確にしめす太陽暦を、古代の人々は簡単に得ることはできなかった。最初は、夜空に

秀英横大明朝 M

ローマでは一日（朔日）を *calendae* といった。これは「月を呼んだ日」という意味だった。これが英語のカレンダーの語源となった。今日私たちが使用している太陽暦は、人類がこれまでに得た最高の暦である。しかし、季節の到来を正確にしめす太陽暦を、古代の人々は簡単に得ることはできなかった。最初は、夜空に

秀英横大明朝 B

ローマでは一日（朔日）を *calendae* といった。これは「月を呼んだ日」という意味だった。これが英語のカレンダーの語源となった。今日私たちが使用している太陽暦は、人類がこれまでに得た最高の暦である。しかし、季節の到来を正確にしめす太陽暦を、古代の人々は簡単に得ることはできなかった。最初は、夜空に

秀英アンチック

ローマでは一日（朔日）を *calendae* といった。これは「月を呼んだ日」という意味だった。これが英語のカレンダーの語源となった。今日私たちが使用している太陽暦は、人類がこれまでに得た最高の暦である。しかし、季節

秀英角ゴシック金 L

ローマでは一日（朔日）を *calendae* といった。これは「月を呼んだ日」という意味だった。これが英語のカレンダーの語源となった。今日私たちが使

秀英角ゴシック金 M

ローマでは一日（朔日）を *calendae* といった。これは「月を呼んだ日」という意味だった。これが英語のカレンダーの語源となった。今日私たちが使

秀英角ゴシック金 B

ローマでは一日（朔日）を *calendae* といった。これは「月を呼んだ日」という意味だった。これが英語のカレンダーの語源となった。今日私たちが使

秀英丸ゴシック L

ローマでは一日（朔日）を *calendae* といった。これは「月を呼んだ日」という意味だった。これが英語のカレンダーの語源となった。今日私たちが使用している太陽暦は、人類がこれまでに得た最高の暦である。しかし、季節の到来を正確にしめす太陽暦を、古代の人々は簡単に得ることはできなかった。最初は、夜空

秀英丸ゴシック B

ローマでは一日（朔日）を *calendae* といった。これは「月を呼んだ日」という意味だった。これが英語のカレンダーの語源となった。今日私たちが使用している太陽暦は、人類がこれまでに得た最高の暦である。しかし、季節の到来を正確にしめす太陽暦を、古代の人々は簡単に得ることはできなかった。最初は、夜空

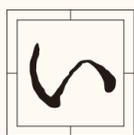
秀英にじみ明朝 L

ローマでは一日（朔日）を *calendae* と書いた。これは「月を呼んだ日」という意味

秀英にじみ角ゴシック金 B

ローマでは一日（朔日）を *calendae* と書いた。これは「月を呼んだ日」という

秀英明朝は、豊富なファミリーを持つ秀英体の中でも、主軸となる書体です。長年にわたり、「本文化の明朝体として書籍や雑誌のテキストを伝え続けてきました。」「本文の明瞭さと書きが印象的のテキストの書体はしっかりとした信頼感を読者に与えます。横面の太さは他の明朝体に比べて太めに設定しているため、細い線のちらつきが少なく、目に優しい黒みを保ちます。



1896 (明治29)年「活版見本帖 未完」より四号活字



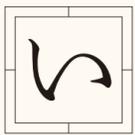
1914 (大正3)年「活版見本帖」より四号活字



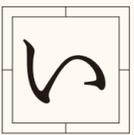
1949 (昭和24)年彫刻母型原字本文用明朝



1951 (昭和26)年彫刻母型原字本文用明朝



1973 (昭和48)年CTS搭載秀英細明朝



2009 (平成21)年平成の大改刻秀英明朝 L

フラッグシップとして秀英体の魅力が凝縮された書体です。漢字が持つ力強い線の動きと、スピード感のある「かな」見出しなど大きいサイズで用いるのに適した書体です。完成期の見本帳を参考に、力強いだけでなく、ゆったりとした風情さを現代に蘇らせました。

**綾**

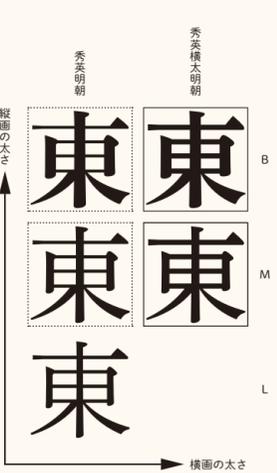
1929 (昭和4)年「明朝初号活字見本帳」より初号活字

**綾**

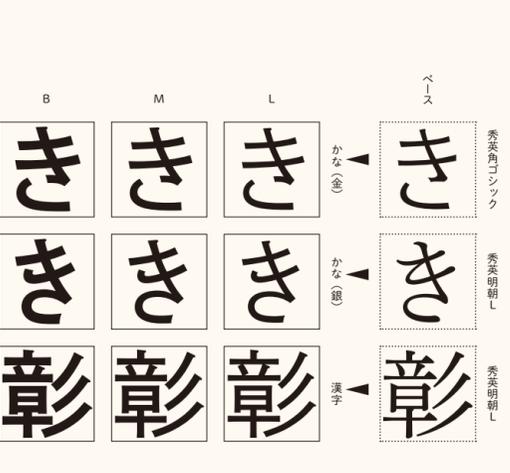
2010 (平成22)年平成の大改刻秀英初号明朝

秀英四号かなは、現在の秀英明朝の起源となる書体です。秀英体らしい端折き、古典的で上品なデザインを持ち、本文組の適性だけでなく、タイトルや見出しでも映えるオールラウンドプレイヤーとも言えます。大きな文字サイズで使用するにも柔らかいカーブが再現され、秀英明朝よりも風な印象を与えることができます。秀英四号かなは、秀英四号かなとは別の骨格を持ち、見出しや児童書の本文組に用いられていました。他のラインアップとは違う、ゆったりした表情と縦書きでの筆脈を随所に感じさせる個性的な平仮名、それに負けない力強さを持った片仮名が特徴です。見出しなど大きいサイズでインパクトのある表現に最適です。

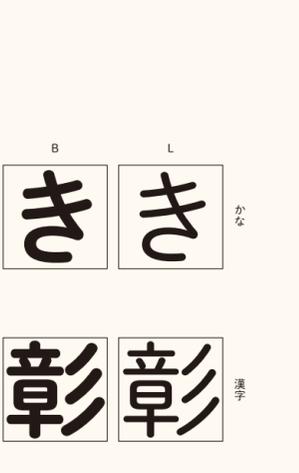
秀英明朝をベースに漢字の横画を太く設計することで、映像やディスプレイ表示に適応した書体です。秀英体の持つしなやかな筆の運びや太さの強弱を残すことで、明朝体の味わいや気品はそのままに、「ゴシック体のような視認性を確保します。



秀英角ゴシックには「種類」の「かな」があります。これまでの秀英角ゴシックを受け継いだオーソドックスで明るい「金」、秀英明朝の骨格を活かすことでクラシカルな印象の「銀」、使う場面、用途に見合った表情で組むことのできる「ゴシック体」です。



これまでの秀英角ゴシックの骨格をベースに、秀英明朝のエッセンスを加えることで、やわらかな表情の中にもどこか説得力を感じさせることのできる丸ゴシック体です。漢字と仮名に程良い抑揚があり、本文用としての適性も十分に備えています。



秀英明朝が活版印刷で利用されていた頃の風合いを再現し、紙とインクの質感を思わせるような、柔らかな表情を持たせた書体です。和菓子や工芸品の、ハンドメイドなど日本の伝統や美、レトロ感の演出に最適です。



実線：活字面（原図） 網掛：活版印刷による印影

- ① 全体への太らせとゆらぎ
- ② 接触した部分の溜まり
- ③ 横画の起筆を丸く、より太く
- ④ ハライ・ハネの先端をより太く丸く
- ⑤ 交差部のインクの溜まり
- ⑥ ウロコの角は丸く

見出し (10pt 90%平体)  
本文 (秀英明朝 L 9pt 95%平体)  
出典：岩波書店「広辞苑 第六版」

秀英明朝 L 文字セット: Adobe-Japan1-6 (23,058文字)

明いそぐ夜の美しき竹の月アイウエオ ABCDEabcdefg h 0123456789

秀英明朝 M 文字セット: Adobe-Japan1-6 (23,058文字)

明いそぐ夜の美しき竹の月アイウエオ ABCDEabcdefg h 0123456789

秀英明朝 B 文字セット: Adobe-Japan1-6 (23,058文字)

明いそぐ夜の美しき竹の月アイウエオ ABCDEabcdefg h 0123456789

秀英初号明朝 文字セット: Adobe-Japan1-3 (9,354文字)

明いそぐ夜の美しき竹の月アイウエオ ABCDEabcdefg h 0123456789

秀英四号かな 文字セット: Adobe-Japan1-3 (9,354文字) \*漢字は秀英明朝 Mと組み合わせています。

明いそぐ夜の美しき竹の月アイウエオ ABCDEabcdefg h 0123456789

秀英四号太かな 文字セット: Adobe-Japan1-3 (9,354文字) \*漢字は秀英初号明朝と組み合わせています。

明いそぐ夜の美しき竹の月アイウエオ ABCDEabcdefg h 0123456789

秀英横太明朝 M 文字セット: Adobe-Japan1-3 (9,354文字)

明いそぐ夜の美しき竹の月アイウエオ ABCDEabcdefg h 0123456789

秀英横太明朝 B 文字セット: Adobe-Japan1-3 (9,354文字)

明いそぐ夜の美しき竹の月アイウエオ ABCDEabcdefg h 0123456789

秀英アンチック 文字セット: Adobe-Japan1-3 (9,354文字) \*漢字は秀英角ゴシック金 Bと組み合わせています。

明いそぐ夜の美しき竹の月アイウエオ ABCDEabcdefg h 0123456789

秀英角ゴシック金 L 文字セット: Adobe-Japan1-3 (9,354文字)

明いそぐ夜の美しき竹の月アイウエオ ABCDEabcdefg h 0123456789

秀英角ゴシック金 M 文字セット: Adobe-Japan1-3 (9,354文字)

明いそぐ夜の美しき竹の月アイウエオ ABCDEabcdefg h 0123456789

秀英角ゴシック金 B 文字セット: Adobe-Japan1-3 (9,354文字)

明いそぐ夜の美しき竹の月アイウエオ ABCDEabcdefg h 0123456789

秀英角ゴシック銀 L 文字セット: Adobe-Japan1-3 (9,354文字)

明いそぐ夜の美しき竹の月アイウエオ ABCDEabcdefg h 0123456789

秀英角ゴシック銀 M 文字セット: Adobe-Japan1-3 (9,354文字)

明いそぐ夜の美しき竹の月アイウエオ ABCDEabcdefg h 0123456789

秀英角ゴシック銀 B 文字セット: Adobe-Japan1-3 (9,354文字)

明いそぐ夜の美しき竹の月アイウエオ ABCDEabcdefg h 0123456789

秀英丸ゴシック L 文字セット: Adobe-Japan1-3 (9,354文字)

明いそぐ夜の美しき竹の月アイウエオ ABCDEabcdefg h 0123456789

秀英丸ゴシック B 文字セット: Adobe-Japan1-3 (9,354文字)

明いそぐ夜の美しき竹の月アイウエオ ABCDEabcdefg h 0123456789

秀英にじみ明朝 L 文字セット: Adobe-Japan1-3 (9,354文字)

明いそぐ夜の美しき竹の月アイウエオ ABCDEabcdefg h 0123456789

秀英にじみ丸ゴシック B 文字セット: Adobe-Japan1-3 (9,354文字)

明いそぐ夜の美しき竹の月アイウエオ ABCDEabcdefg h 0123456789

秀英にじみ角ゴシック金 B 文字セット: Adobe-Japan1-3 (9,354文字)

明いそぐ夜の美しき竹の月アイウエオ ABCDEabcdefg h 0123456789

秀英にじみ角ゴシック銀 B 文字セット: Adobe-Japan1-3 (9,354文字)

明いそぐ夜の美しき竹の月アイウエオ ABCDEabcdefg h 0123456789

## 秀英体を使うには

- パッケージフォント：PCにフォントをインストールして利用いただけます。
- Webフォント：インターネットを介してフォントを配信するサービスです。

- モリサワのフォント製品「MORISAWA PASSPORT」  
「Select Pack」で提供、販売しています。

MORISAWA  
PASSPORT

Select Pack

- フォントワークスの年間定額制フォントサービス  
「LETS」で提供しています。

LETS  
LEADING EDGE TYPE SOLUTION

- アドビのフォントライブラリサービス  
「Adobe Fonts」で提供しています。

Adobe Fonts

- Monotypeのフォント販売サイト  
「MyFonts」で提供しています。

Monotype

- モリサワのクラウドフォントサービス  
「TypeSquare」で提供しています。

TypeSquare

- ソフトバンク・テクノロジーのWebフォントサービス  
「FONTPLUS」で提供しています。

F FONT PLUS

- リアルタイムのWebフォントサービス  
「REALTYPE」で提供しています。

REALTYPE

### \* その他

電子機器やアプリケーションへの組込みなど、  
上記製品・サービスの利用範囲外での利用は  
下記までお問い合わせください。

## 大日本印刷株式会社

ABセンター コミュニケーション開発本部  
秀英体開発グループ

〒162-8001 東京都新宿区市谷加賀町1-1-1  
<http://www.dnp.co.jp/shueitai/>



秀英くんが  
やさしく解説!

秀英体アーカイブ映像 公開中

- ・人に想いを届けるフォント。大日本印刷の秀英体
- ・その手が文字をつくるまで～活版印刷の職人たち～

秀英体

検索



LINEスタンプショップで

秀英体

検索